



中島根

平成30年3月22日
足立区立中島根小学校
校長 武井利依

平成29年度最終号

しのたま ゆう なんじ こ し おし か
子曰わく、由、女に之れを知ることを誨えん乎。

こ し こ し な し し な こ し なり
之れを知るを之れを知ると為し、知らざるを知らずと為す。是れ知る也

校長 武井利依

例年より9日も早く開花宣言が出され、本校の校庭のサクラの芽も膨らみ始めたと思う間もなく寒の戻りとなり、昨日はなごりの雪に驚かされました。

平成29年度は4月6日より、全児童、教職員が「なげだろうとかんがえてしんけんにまなびねばりづよくつづけよう」を合い言葉に日々互いに努力を重ねて211日、本日を迎えました。それぞれができる限りの努力を積み重ね、意識してつなげる姿勢をもち続けました。

本日の修了式では、各学級の代表に修了証を渡しました。この1年間の478人のお子さんの足跡とともに努力の積み重ねが読み取れる「あゆみ」は、各教室で担任を通してお子さんに渡しました。それぞれの「あゆみ」からは、さまざまな活躍の場面が目に見えてきます。どうぞ、ご家庭でもご一緒にご覧いただき、この1年の来し方を振り返り、新年度に向けての目標などを話題にさせていただきようお願い申し上げます。修了式では今年度の児童全員が揃って歌う最後の校歌を共に歌いました。明日の卒業式で、卒業生と在校生代表の5年生が参列者とともに今年度最後となる校歌を歌います。

今年度最後の論語の章句は、弟子の子路（由）に「知っている」とはどういうことか教えています。はっきりわかっていることだけを「知っている」とし、よく知らないことは「知らない」ととする。このように「知っている」と「知らない」の間に明確な境界線を引ければ本当に「知っている」と言えると教えています。まずは、人を愛することで人を知り、自分自身も人に愛され知られる努力をしていくことが大切です。進学・進級に向け、今まで本当に「知っている」かどうか自問しながら、これからも本当に「知っている」と言えるよき関係を人や学びなどのすべてにわたって築く努力をしていけるように支援していきます。

中島根小学校での6年間の思い出を胸に卒業生は明日巣立ちます。本校が明日の卒業式をもってつつがなく今年度を終えることができますのも、保護者の皆様、地域の皆様のご理解ご支援、ご協力のたまものと心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

春休みもよい習慣を！ ○規則正しい生活 早起き早寝でいつも通りの生活を
○ 家庭学習 家庭学習の習慣が身についているお子さんが多いです。よい習慣は続けることでさらに強固なものになります。春休みにも、今年度学習したことの復習をしたり、音読をしたり、読書をしたりして、1年間を振り返り、家庭学習ノートに記録しておくことをすすめます。

春休み！親子で挑戦！ 朝の5分間、親子で一緒に取り組みましょう。

- 論語を素読しよう(約2分) 4月号から紹介してきた論語の章句は裏面の14です。毎日、素読しましょう。素読のポイントはたった二つ『よい声を出して読む』『姿勢をよくして読む』です。
- タオル体操をしよう(約3分) ①プル②エクステともに10回ずつ
 - ①プル(胸の前でタオルを動かし背中をほぐす)
 - ②エクステ(頭の後ろでタオルを動かし、全身で上へ伸びる)

平成二十九年年度に紹介した十四の章句

子曰わく、君子は人の美を成す。人の悪を成さず。

小人は是に反す。

子曰わく、苗にして秀でぬの者、有るかな。

秀でても実のなぬの者、有るかな。

子曰わく、父母の年、好しむべし、可からざる也。

子曰わく、則ち以てて言ひ、

「子曰わく、則ち以てて言ひ、」

子曰わく、忠信を主として、口を初め、心は之を成す。

子曰わく、友は之を成す。

子曰わく、過しては、則ち改むべし、之を憚るべし、勿かれ。

子曰わく、老者は之を安んじ、朋友は之を信じて、

少者は之を懐けん。

子曰わく、約を以てて之れを失する者は、鮮し。

子曰わく、厭はれたり。子朝より退きて、曰く、

「人を傷ないたり乎」と。馬を問はず。

子曰わく、益者三樂、損者三樂。礼樂を節するを樂しみ、人の善を道うを樂しみ、

賢友多きを樂しむは益なり。

驕樂を樂しみ、佚遊を樂しみ、宴樂を樂しむは、損なり。

子曰わく、黙して之を讒し、学んで厭わず。人に諷えて倦まず。

何んぞ我れに有りたる哉。

子曰わく、君子は貞として、辭なりしむ。

子曰わく、君子は坦として、瀟瀟。小人は長「厭」。

子曰わく、君子の過、好むべし、日月の食の如し。

子曰わく、過ちちや、人皆之をを思ふ。更、人皆之をを信じて、

子曰わく、日に其の亡き所を知り、月に其の能くする所を諷む、無きは、

学を好むと謂ふべきのみ。

子曰わく、由、女に之れを知ることを諷えん乎。

子曰わく、之れを知るを諷むべし、之れを知るを諷むべし、之れを知るを諷むべし、之れを知るを諷むべし、

平成二十八年度に紹介した十四の章句

子曰、四を以てて教う。文、行、忠、信。

子曰わく、君子は、小知すべからずして、大受すべし。

小人は大受すべからずして、小知すべし。

子曰わく、学んで思わねば、則ち罔く。

思ひて学ばねば、則ち殆く。

子曰わく、人の己を知らぬを患えず。人を知らぬを患ひ。

子曰わく、衆これを悪むも必ず察く。

衆これを好むも必ず察す。

子曰わく、人にして信無へんは、其の可なるを知らぬなり。

大車に輓無へ、小車に輓無へんは、

其れ何を以てて之を行らざる。

子曰わく、賢を見ては斉しからんことを思ひ、

不賢を見ては内に自ら省みる。

子曰わく、述べて作らず、信じて古えを好む。

子曰わく、君子は坦かに蕩蕩たり、小人は長えに戚戚たり。

子曰わく、丘や幸いなり、苟も過ちあれば、人必ずこれを知る。

子曰わく、君子は上達す。小人は不達す。

子曰、子貢に謂いて曰わく、女と回と孰れか愈れる。対えて曰わく、

賜や、何ぞ敢えて回を望まん。回や一を聞きて以て十を知る。

賜や一を聞きて以て二を知る。

子曰わく、如からざるなり。吾れと如からざるなり。

子曰わく、与に言つべしとてこれと云わねば、人を失う。

与に言つべしとてこれと云ふば、言を失う。

知者は人を失わず、亦た言を失わず。

樊知、仁を問う。子曰わく、人を愛す。知を問う。子曰わく、人を知る。